

環境調査の予定と結果概要

事業が自然環境に及ぼす影響を低減するために適切な保全措置を講じ、その効果を継続してモニタリング（事後調査）しています。

令和3年（2021年）度のモニタリング実施状況及び計画

項目	モニタリング対象種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コウモリ類	キクガシラコウモリ				●								
希少鳥類	サシバ	●	●	●	●								
	ヤイロチョウ		●	●	●								
	アカショウビン		●	●	●								
	チゴモズ		●	●	●								
水生生物	モリアオガエル			●	●*								
	カスミサンショウウオ											○	
	タガメ			●*	●								
ホタル類	ヒメボタル等			●									

「●」は実施済、「○」は実施予定であることを示す。また、「※」は補足的に実施した調査を示す。

調査結果の概要

(1)コウモリ類

調査地点のうち2か所でキクガシラコウモリが確認され、そのうち1か所では繁殖（幼獣）が確認されました。工事影響はほとんどないものと考えられます。



キクガシラコウモリ（成獣）



キクガシラコウモリ（幼獣）

(2)希少鳥類

全てのモニタリング対象種の生息が確認されました。またサシバは工事前と同様に繁殖（幼鳥）が確認されました。工事による影響はほとんどないと考えられます。



サシバ（飛翔）



サシバ（とまり）

(3)水生生物

タガメが既往生息地で確認され、モリアオガエルは全ての既往生息地とビオトープで繁殖が確認されました。ビオトープは生息保全地として機能していると考えられます。



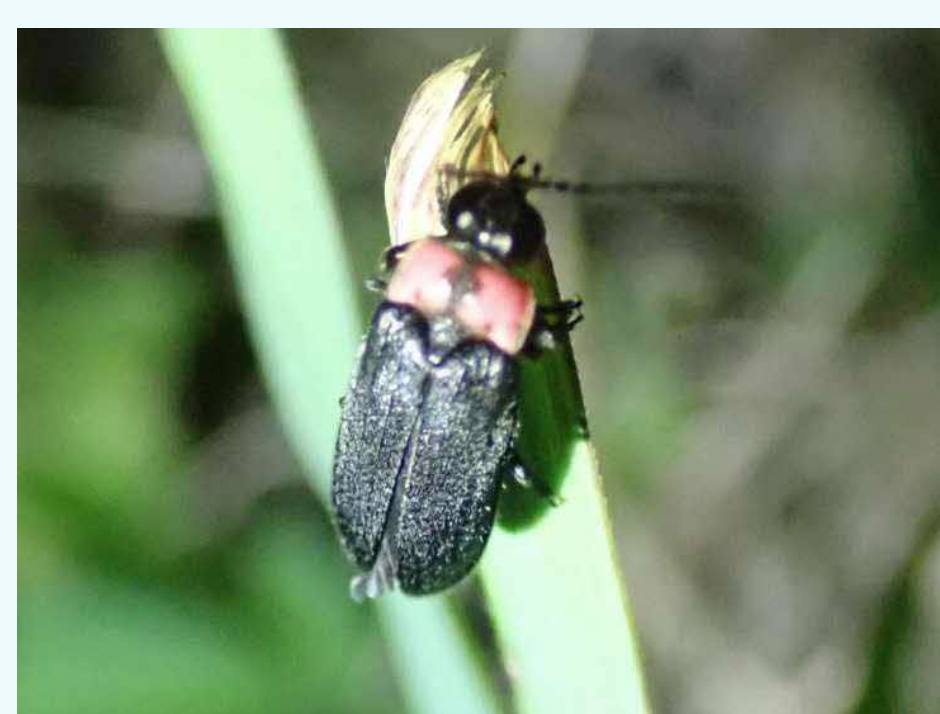
タガメ



モリアオガエル

(4)ホタル類

全てのモニタリング対象種（ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル）が確認されました。生息環境は維持されていると考えられます。



ゲンジボタル



ヒメボタル